模試と同傾向の出題　～ベネッセ・駿台模試より～

国語

センター試験・第１問　問６（ii）	第３回ベネッセ・駿台マーク模試・第１問　問６（ii）
(ii) この文章の構成・展開に関する説明として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 11 。 ① 第1～3段落では十六世紀から二十世紀にかけての科学に関する諸状況を時系列的に述べ、第4段落ではその諸状況が科学者の高慢な認識を招いたと結論づけてここまでを総括している。 ② 第5～6段落ではコリンズとピンチの共著『ゴレム』の趣旨と主張をこの文章の論点として提示し、第7～9段落で彼らの取り上げたケーススタディーの一例を紹介している。 ③ 第10段落ではコリンズとピンチの説明を追いながら彼らの主張を確認し、第11段落では現代の科学における多様な領域の存在を踏まえつつ、彼らの主張の意義を確認している。 ④ 第12段落ではコリンズとピンチの議論の仕方に問題のあることを指摘した後に具体的な事例を述べ、第13段落ではコリンズとピンチの主張の実質を確認して、筆者の見解を述べている。	(ii) この文章の構成・展開に関する説明として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 11 。 ① 第2段落で提示された身体の占める時間と空間というテーマは、第4・5段落でそれぞれ論じられ、第6段落で一応の結論が導かれている。 ② 第5段落で言及された時間における生理的身体のありようについて、第9～11段落で、「する」身体の観点と「ある」身体の観点から考察されている。 ③ 第6段落に述べられた「人類のもっとも永続的な観念」について、第15・16段落で再び言及し、その根底にある「身体」のありようを具体例を挙げながら述べている。 ④ 第8段落で提示された「文明のなかの身体」の三つのありようについて、第9～14段落で順を追って説明した後、その優劣が論じられている。

今回のセンター試験の第１問現代文・評論 問６では、(i) で文章の表現に関する設問が、(ii) で文章の構成・展開に関する設問が出題された。

第３回ベネッセ・駿台マーク模試の第１問現代文・評論 問６でも、〈表現と構成・展開〉〈構成・展開〉の２つの設問を出題した。これらは問題文と選択肢とを対照させて吟味すれば正答を選べるものだが、特に〈構成・展開〉の枝問では、部分を丁寧に読みとりつつも、問題文全体の論の構成や展開を俯瞰的に把握して判断する必要がある。

いずれの設問も、問題文全体の構造を意識して読み、筆者がどのように論を組み立てているのかを把握する力が求められる出題であった。